



1 学生向けマンションの廊下。5階建ての2棟に、生活に合わせた多彩なパターンの全110室を完備。2 同じく学生向けマンションのエントランス。友達との待ち合わせなど様々なことに使用されている。学生の日々の生活をサポートする寛大な共用空間が満載だ。

手段はさまざまでもゴールは一つ  
宮城を元気に、豊かにすること



会社情報

■設立 1950年6月  
 ■代表 竹田 隆  
 ■資本金 2,000万円  
 ■従業員数 108人(男69人/女39人)

〒984-0075  
 仙台市若林区清水小路8  
 TEL/022-227-1341  
 FAX/022-262-7325  
<https://www.maru-tama.com/>

求人情報

■初任給 220,000円～  
 ■福利厚生 社会保険(雇用・健康・厚生年金・労災) 役職手当、給食手当、家族手当、通勤手当、住宅手当、残業手当、深夜残業手当、単身赴任手当  
 ■休日休暇 【本社】年間101日  
 【店舗】月7日シフト制

■職種 総合職(店舗スタッフ、事務スタッフ、本社スタッフ)  
 ■インターンシップ受け入れ/あり ■大学生アルバイト受け入れ/あり  
 ■採用担当者連絡先/TEL022-227-1341(佐々木 広輝)  
 ✉h.sasaki@marutama.co.jp

■CORPORATE RESEARCH 採用ページはコチラから  
 会社案内請求  
 自社説明会  
 会社見学

■採用までの流れ  
 ① 会社説明会参加  
 ② 一次面接参加  
 ③ 職場見学・先輩座談(希望者のみ)  
 ④ 適性テスト受検  
 ⑤ ES提出  
 ⑥ 二次面接参加  
 ⑦ 内々定



店内では、お客様やホールの状況についての情報共有が頻繁に行われている。

## 会社に入社して、 一番やりがいを感じたことは？

先輩インタビュー

### 宮城でお客さまの暮らしに関われる 私にとって天職のような会社です

パチンコをただの営利目的やギャンブルではなく娯楽として捉え、地域のお客さまにとって心あたまも一つの家のような場所を提供したいという考え方に感銘を受けて入社を希望しました。入社後はコロナウイルスが蔓延する中でも、安全に配慮した上で濃密な研修を受けることができ、スタッフのために必要なことを惜しみなく与えてくれる会社だと実感しています。お客さま対応の際に心がけているのは、常にお客さまのお気持ちに寄り添い、少しでもプラスなお気持ちになっていただくこと。お客さまからの「ありがとう」のお言葉が大きなやりがいにつながっています。今後はもっと接客力を身につけてお客さまのためにできることを増やし、いずれは役職を持つものとして活躍できればと思っています。



良いところを吸収し  
尊敬し合える仲間がいます！



profile  
【名前】洞口 拓真さん 【在籍年数】7ヵ月  
【配属】まるたま山田店勤務

### 自分の仕事でスタッフやお客さまの お役に立てることが喜びです

地域に根差した企業で、労務面から誰かの役に立ちたいと思い当社の入社試験を受けました。入社して感じたのはアットホームな雰囲気の家だな、ということ。みなさん気さくに声をかけてくれるので、すんなりと溶け込むことができました。念願叶って現在は給与計算やそれに伴う社会保険の手続きなどの仕事をしています。デスクワークがほとんどで、気を抜くと目の前の仕事に集中しがちになってしまうので、いつも「この業務の先には店舗スタッフが、そしてお客さまがいる」と心に留めながら業務に当たっています。誰かの役に立つ仕事ができること、それこそが大きなやりがいですね。今後は自分自身のスキルアップはもちろん、地域貢献活動にもさらに熱心に取り組み、地元・宮城を盛り上げていきたいです。



社員同士の距離が近くて  
働きやすい環境です



profile  
【名前】加賀 早矢香さん 【在籍年数】3年8ヵ月  
【配属】総務部労務課

密にならないようお客様同士の間隔を空けて営業した。刻一刻と社会が変わっていく中、今もなおお客様に安心して足を運んでいただけるよう、スタッフが一丸となり対策にあたっている。

**地域の未来を  
ともに支える人財を**

“魅力人財”の育成を掲げる同社。新入社員研修では、接客やトラブル対応といった店舗でのOJT研修はもちろん、充実した設備が自慢のイノベーションセンターでの学

びも充実。能力開発やキャリアアップのサポートも手厚く、仕事を通じて自己実現が叶う。「コロナ禍を体験し、弊社のこの事業にかける想いを改めて実感。どんな世の中になろうと軸をぶらさず地域のために、と全社員が決意を新たにしました」と話す佐々木センター長。「だからこそ必要なのは、未来に進むための仲間です」。チームマルタマの一員として、ともに未来を創り、地域に貢献したいと願う学生からのコンタクトを、同社は待っている。



5 「フットサル大会 マルタマカップ」に参加してくれたチームと交流を図る社員。地域に根を張った活動で社会貢献を続けている。6 人事を担当するHR開発センターのスタッフたち。「採用活動で結んだ縁を大切にしています」。

7 学生マンションの最上階にはカフェテリアが。その他、勉強や談話に最適なラウンジや、運動やイベントに利用できるアクティビティスタジオなどもある。空間にこだわりを持つマルタマならではの触れ合いながら学びあえる物件だ。



宮城の地で1950（昭和25）年に創業した『マルタマ』。パチンコの「まるたま」そして地元ではおなじみだ。しかし同社の佐々木広輝センター長は、「マルタマIIパチンコではありません」と語る。第二次世界大戦の終戦間際、仙台大空襲で二面焦土と化した宮城。その時の悲哀に暮れる人々の姿を見て、創業者が抱いた「宮城をもっと元気にしたい」という熱い想いが源となっており、その手段として選択したのがパチンコだったというのだ。第二号店はわずか16台が並ぶだけの小さなホールだったが、競争で疲れ切っていた当時の人たちに、大いなる楽しみと笑顔をもたらした。以来71年にわたり、「宮城の発展に貢献したい」という創業時の信念を貫き通しているマルタマ。昨今、射幸性を高めた営業スタイルが主流となっている業界にあって、同社は「心あたままるたまコミュニケーション」としてのパチンコの在り方を変えず追求し続けている。

時代背景の中でパチンコという手段を選択しつつも、世の中の変化とともに活動の領域を広げてきたマルタマ。同社のもう一つの基幹事業が不動産業だ。「宮城の将来を担う人づくりを通じ、地域に恩返しを」との想いから、2020（令和2）年4月、仙台市内に学生向けマンションを建設。暮らしが楽しくなるアイデアがあふれた住環境を通じて学生の成長を支援する。

地域の発展を願うだけに、地域貢献活動「宮城元気のわプロジェクト」にも積極的に。老人ホームや介護施設でのリハビリを兼ねた「出張パチンコ大会」や復興を願う仙台市や若林区と共に開催している「若林シーサイドマラソン」など幅広い活動を展開。老若男女問わず、地域の方とふれあいながら、新たな「わ」を広げている。

また、今期からは新型コロナウイルス感染症拡大防止への取り組みにも注力。県からの自粛要請より早く、先んじて「入店時のマスク着用、手指消毒、検温入場」などを行い、

地元元気と活力を  
それが変わらぬ理念

不動産業に地域貢献  
コロナ対策にも尽力

## どんな時代でも信念を曲げず、地域に貢献し続ける企業に



4 全店の管理職により「お客様ファーストの会」を発足。接客や売り場づくりの在り方を一から見直している。



1 竹田隆代表取締役社長が目指すのは、「地域に愛され、地域とともに歩み、地域に必要なとされる存在」だ。  
2 「宮城のためにできることを一緒にカタチにしていましょ」と経営企画室長・竹田恵理子さん。  
3 HR開発センター長の佐々木広輝さん。「withコロナの時代。本当の意味でお客さまに向かう姿勢が問われています」と熱く語る。